



平成23年11月14日

卓話 『「メタボリズムの未来都市展」紹介』

森美術館 館長

南條 史生 様

皆さんこんにちは。今日は森美術館の宣伝をさせていただきます。メタボリズムというのは1960年に日本で世界デザイン会議が開かれた時、日本の若い建築家たちが出したマニフェストで、それがメタボリズム宣言です。参加したのは建築家の黒川紀章さんや菊竹清訓さん、槇文彦さんなど、丹下健三さんの薫陶を受けた人たち。この方々の活動を紹介しようということで展覧会を構成しました。メタボリズムというのは新陳代謝という意味。建築も生物のように状況に合わせて成長したり縮んだり、柔軟に変化に対応する。そのような建築でできている都市があるべきじゃないかという宣言だったわけです。

最初に、戦前の満州や台湾、韓国などでの都市計画案や1940年に東京がやろうとした万国博覧会の資料が出ています。次にメタボリズムの誕生ということで丹下さんの事績を沢山出しています。その一つとして丹下さんの作った模型があります。東京湾に海上都市を築くという提案で、戦争の後、日本は満州も韓国も台湾も失って、小さい島でどう発展しようかと悩んだ。そして海上と空中に伸びればいいんじゃないかと考えて1960年に出された有名な提案です。実現しなかったんですが、今の海ほたるは大体この軸線に沿ってできているようです。

メタボリストは日本の伝統建築と近代建築をどう融合させようかといろいろやっています。丸い棒に箱がくっついたような建築では、棒の中に電気、ガス、水道、階段などすべてのインフラが集めてある。もっと箱が欲しければ増やせばいいという考えです。黒川紀章さ

んが作った中銀カプセルタワーも有名です。代官山のヒルサイドテラスもメタボリスト的建築と捉えられています。20年以上かけて徐々に発展し、新陳代謝していくというわけです。

このようなものを第4室に模型で展示しています。

3つ目のテーマは万博。1970年、宣言から10年後に大阪で万博が開催されます。その中心として建築を指導したのが丹下さんで、そのポイントはお祭り広場。広大な広場の上にトラスで作られた屋根が乗っていて、それが実は人工地盤なんですね。このトラスの中に沢山カプセルがついている。カプセルは家であったり展示室だったりというふうに多くの機能を持たせてあります。万博というのは建築の最大の実験場所なんですね。

この展覧会、サブタイトルは「今蘇る復興の夢とビジョン」としました。メタボリストたちは戦災から復興しようとしたけれど、我々は今震災から復興しようとしている。例えば農村計画。黒川紀章さんが伊勢湾台風後に提案したもので、人工地盤で農村を15メートルほど持ち上げて、畑や田んぼはそのままに、住むところは上という提案をしている。まさに津波の復興計画に結びつく提案です。この展覧会は復興に対するインスピレーションの源泉にもなりますよという意味合いも持たせて、1月15日まで開いています。ありがとうございました。

